

# 史跡田名向原遺跡公園(相模原市)

たなむかいはら

## 史跡田名向原遺跡公園案内図 Tana-Mukaihara Site Park Guide



史跡田名向原遺跡公園へ「裏口」から入ってみる



正面は谷原12号墳(復元)/円墳/7世紀前半の築造/南側から見たところ



たにばら こうふん ふくげん  
谷原12号墳 (復元)

Tanihara 12 Tomb (Reconstruction)

平成6年3月、遺跡公園の北方約60メートルの地点で発掘された約1,400年前の古墳時代後期の小型円墳を復元したものです。

古墳の石室(埋葬者の棺を納める場所)からは、直刀(反りのないまっすぐな刀)や鎌(矢の先端)などの武具や、装身具(アクセサリー)の切子玉などが発見されました。

田名塩田から当麻谷原にかけて確認される10数基の古墳は、谷原古墳群と総称され、公園内に2基(谷原13号墳、14号墳)が保存されています。

This is a reconstruction of a 1,400-year-old Late Kofun Period small, round mound tomb. This tomb was excavated in March 1994 about 60 meters north of the Site Park. Straight-bladed swords (chokuto), arrowheads and other weapons, and ornaments (accessories) such as faceted beads (kirikodama) were found in the stone burial chamber (the place where the deceased's coffin was placed). The ten mound tombs identified between Tana-Shioda and Taima-Tanihara are called the Tanihara Mound Tomb Group. The Tanihara 13 and Tanihara 14 tombs are preserved in the Site Park.



発見された谷原12号墳  
Tanihara 12 Tomb as excavated



石室内から発見された武具や装身具  
Weapons and ornaments  
found in the stone burial chamber

谷原12号墳のあった地点が見て取れる

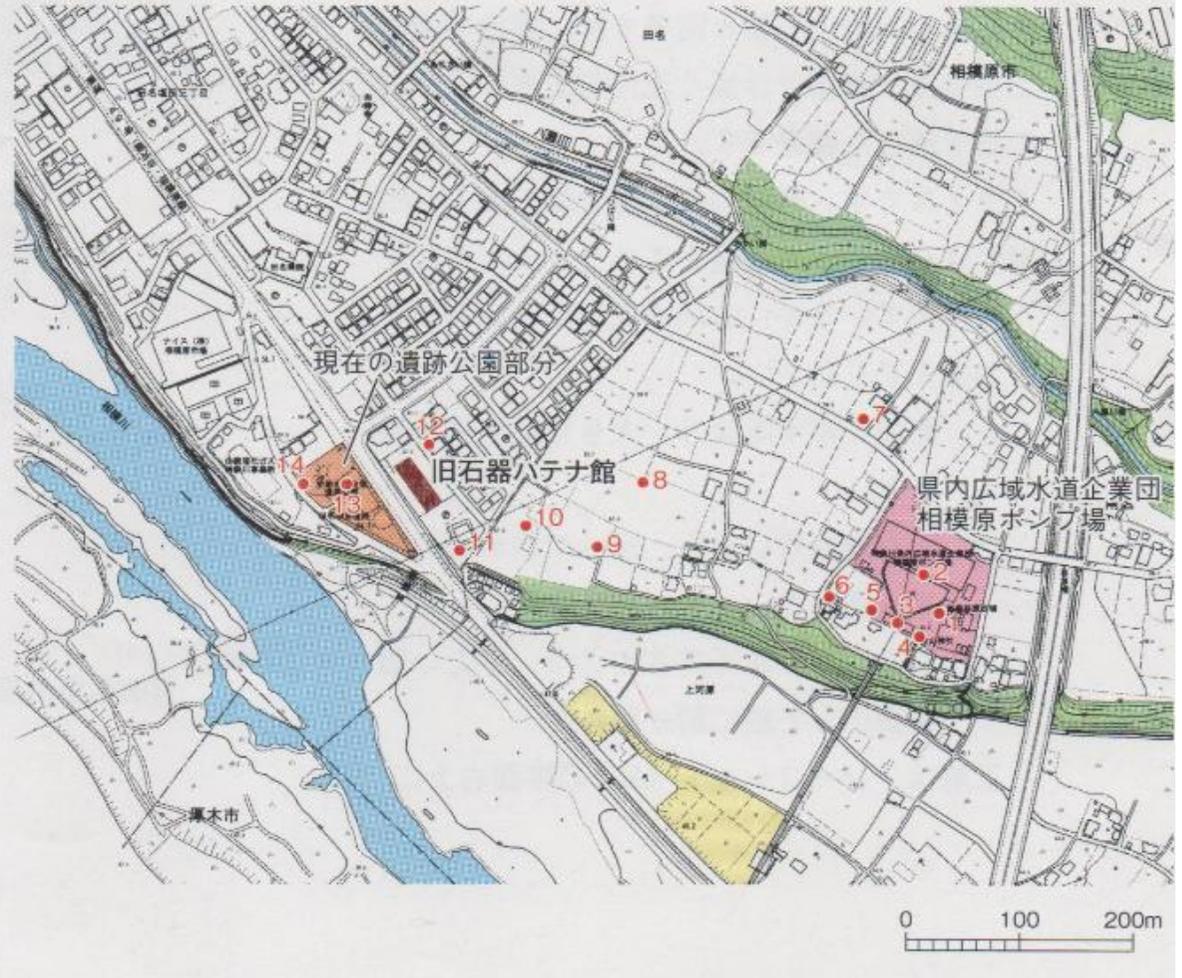
## 相模川上流部最大の古墳群

谷原古墳群は、相模川をのぞむ当麻谷原から田名塩田にかけての段丘上につくられています。これまでに確認された14基は、いずれも7世紀前半を中心とする古墳時代後期のもので、平面形は丸い円墳と呼ばれるものです。

古墳群は、分布の状況から東グループと西グループに分けられ、相模川上流部で最も規模の大きなものとして知られています。

東グループ東端の4基は、県内広域水道企業団相模原ポンプ場建設に際し、1971年に発掘調査されました。その内の1基（1号墳）は、市の指定史跡として場内に保存されています。いずれも構造や規模などは、復元された12号墳とほぼ同様のものです。

公園内に残される2基（13、14号墳）と、移築復元された12号墳は、西グループの最も西側に位置する古墳です。



休館日：年末年始（12月29日～1月3日）

入館料：無料

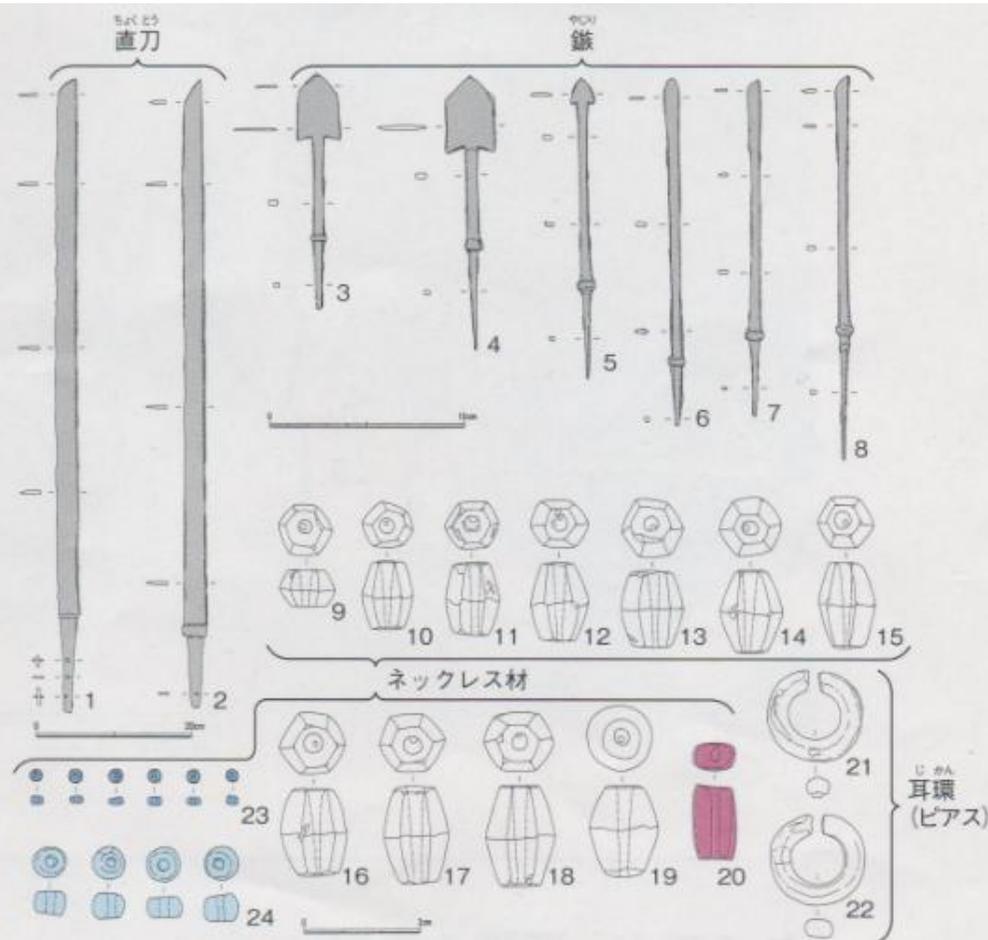
## 出土した武具とアクセサリー

約1,400年前の谷原12号墳の遺体を埋める石室内からは、1, 2のような直刀<sup>ちやくとう</sup>が6点出土しています。いずれも壁際から発見され、1は東の壁際から出土した太刀で全長は81.6cmです。

3～8のような鎌<sup>やじり</sup>は60点出土し、壁際と石室中ほどから発見されています。鎌の先端の形は五角形（3、4）や三角形（5）などさまざまです。

銀メッキされた21、22の耳環<sup>じかん</sup>（ピアス）2点は、奥壁寄り中ほどから発見されました。22の大きさは径2.5cm、重量は12.55gです。

ネックレス材の水晶製の切子玉<sup>きりこだま</sup>（9～19）は11点、琥珀製の棗玉<sup>こはくせい なつめだま</sup>（20）は1点、ガラス小玉<sup>ガラス小玉</sup>（23）や、滑石と蛇紋岩製小玉<sup>かっせき じゃもんがんせい こだま</sup>（24）は合計423点出土しています。いずれも耳環周辺から発見されました。



「田名塩田遺跡群 I」 1999.3 田名塩田遺跡群発掘調査団を加工  
※谷原古墳からの出土品の一部を旧石器ハテナ館で展示しています。

南西側から見たところ/横穴式石室がある







西側から見たところ



北東側から見たところ/左手奥に見える高まりは谷原14号墳



これが谷原14号墳(位置表示)/円墳/7世紀前半の築造/東側から見たところ



北側から見たところ



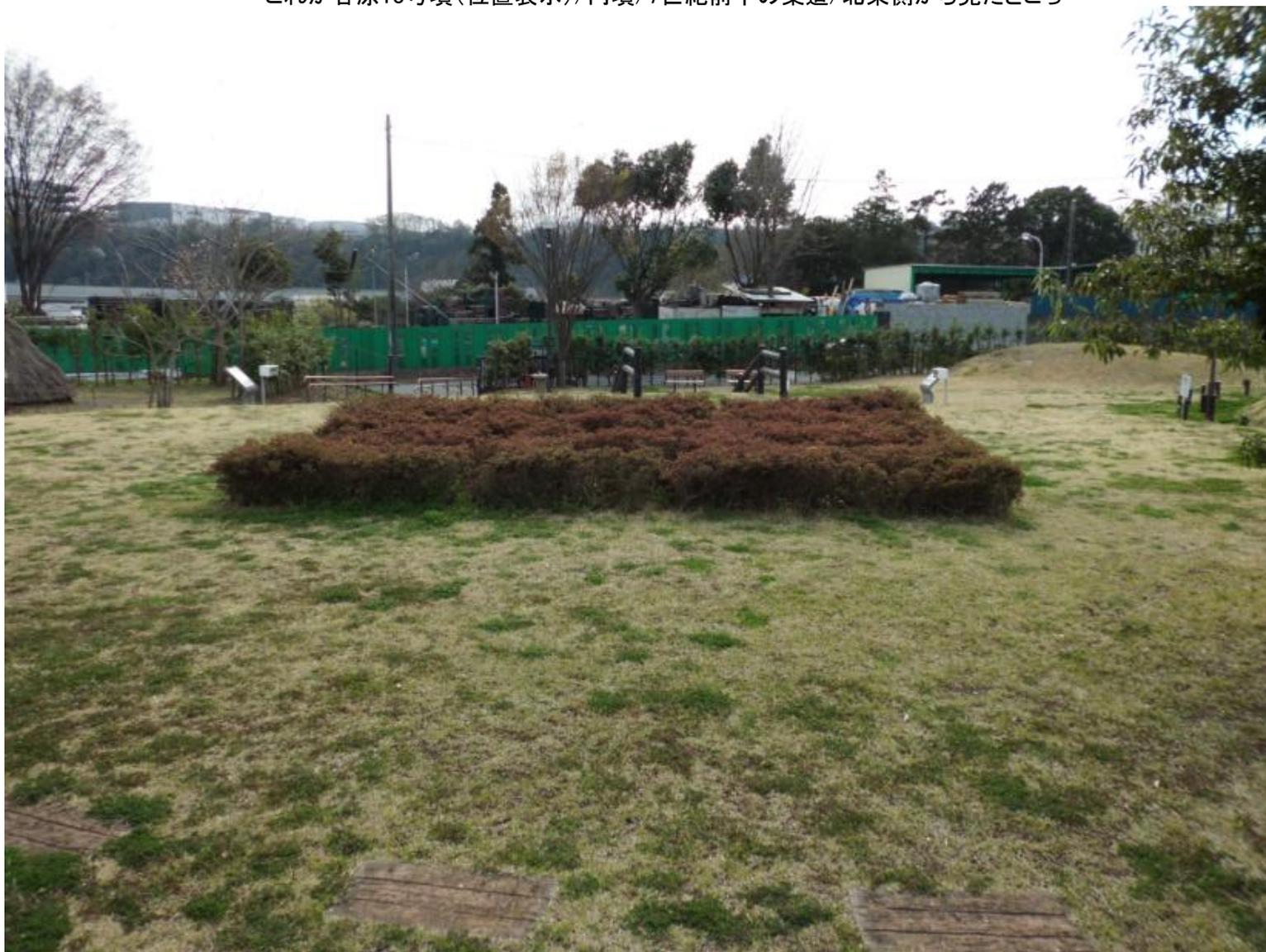
北西側から見たところ



さて、正面の植栽の部分が谷原13号墳



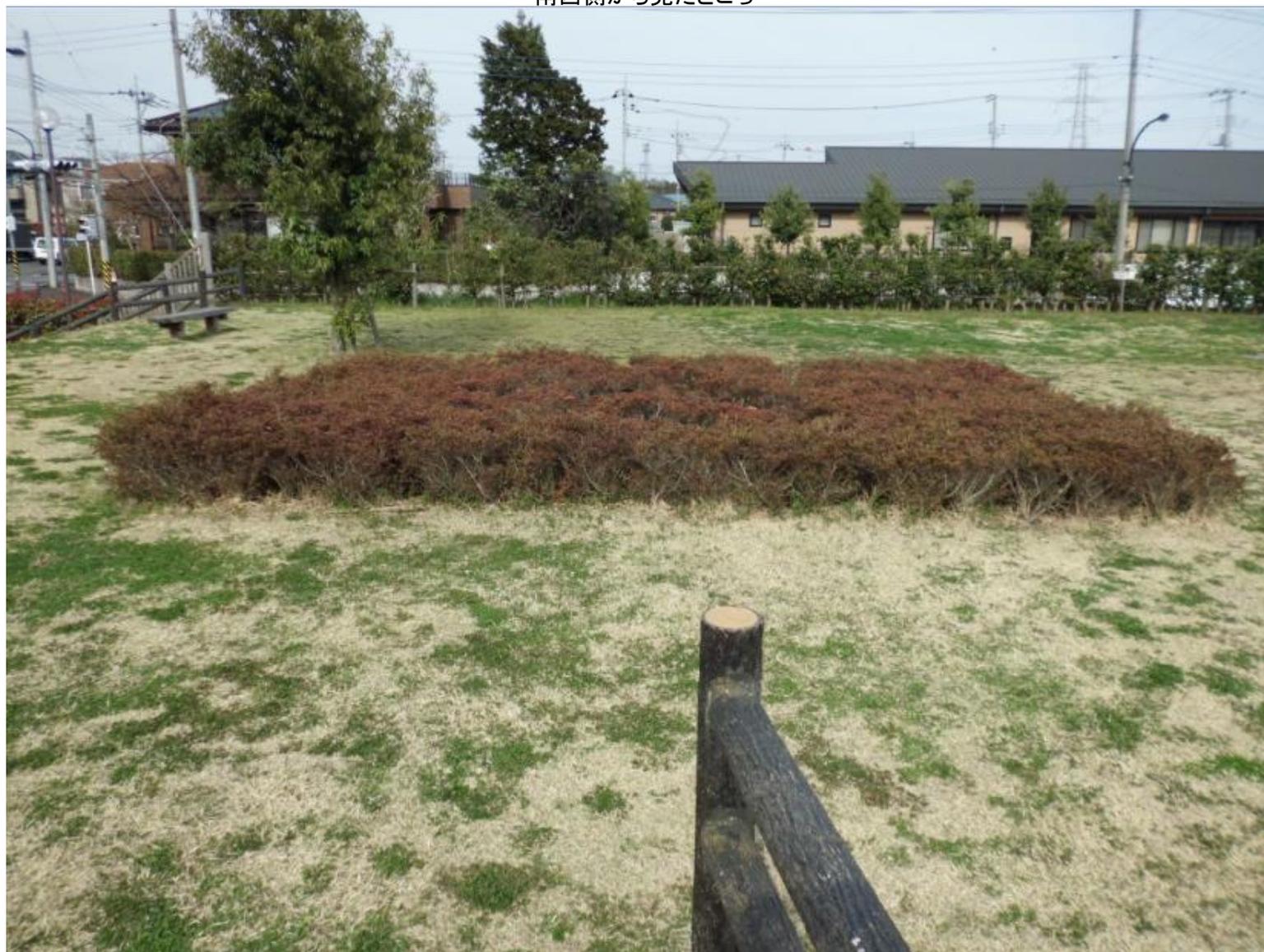
これが谷原13号墳(位置表示)/円墳/7世紀前半の築造/北東側から見たところ



南東側から見たところ



南西側から見たところ



そこから見た谷原12号墳/左奥は谷原14号墳



さて、前方は縄文時代中期の竪穴住居(復元)



たてあなじゆうきよ ふくげん  
**竪穴住居（復元）**  
Pit-Dwelling (Reconstruction)

平成8年～10年にかけて、遺跡公園の東側の道路建設の調査で発掘された約5,000年前の縄文時代中期の竪穴住居を復元したものです。

直径約3.0メートルの円形の竪穴住居の中央には、石で囲われた炉（火をたいた場所）と、炉跡を囲むように5本の柱穴が発見されました。

勝坂遺跡をはじめ、市内各地で確認される縄文時代中期の住居跡としては、比較的小型の竪穴住居跡です。

This is a reconstruction of a 5,000-year-old Middle Jomon Period pit-dwelling discovered during excavation work in 1996-1998, for a road to be constructed along the eastern side of the site. The pit is about 3 meters in diameter, round, and with a stone-enclosed hearth (a place where fires were burnt) in the center of the floor. There were 5 postholes arranged in a fashion as if surrounding the hearth. This pit-dwelling is relatively small compared to those found at the Middle Jomon Kassaka site and the many other Middle Jomon sites in Sagami-hara City.



発見された竪穴住居跡  
The excavated pit-dwelling



住居から発見された縄文土器  
A Jomon clay vessel found in the dwelling

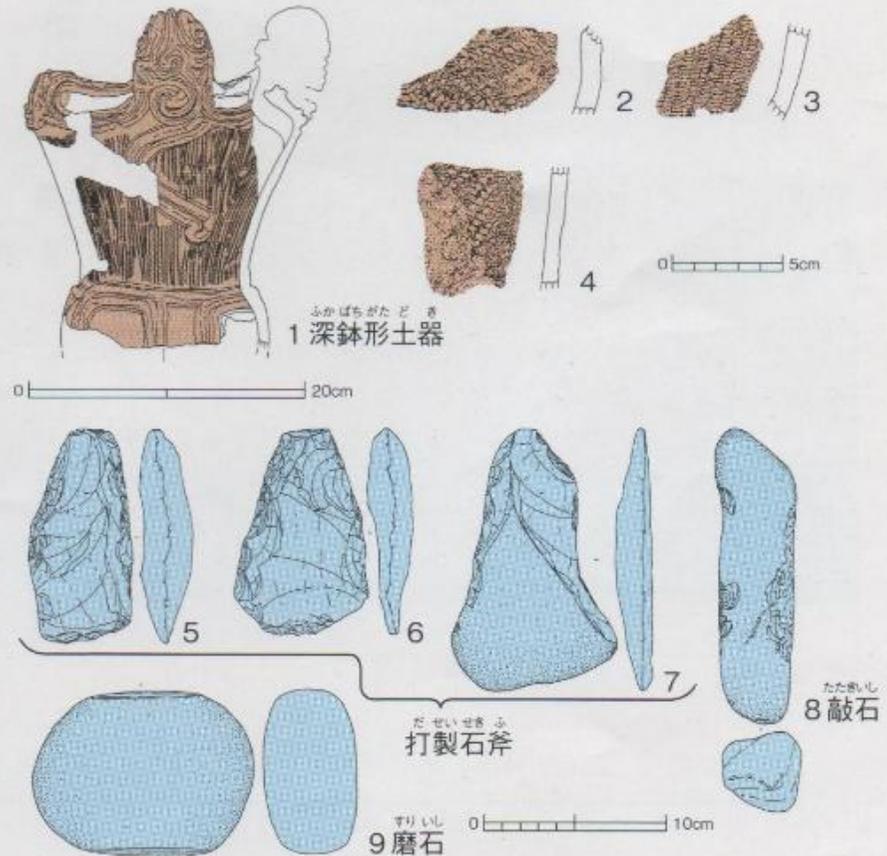
## 出土した土器と石器

復元モデルとなった縄文時代中期の竪穴住居跡から出土した土器と石器は少なく、形が復元できた土器は口径20cmほどの<sup>ふかばちがたどき</sup>深鉢形土器 (1) だけでした。

遺跡から出土した縄文土器は、これまでの研究成果をもとにその形や文様から分類され、作られた時期や地域などを推測することができます。

復元された土器の口縁には、特徴ある<sup>うずま</sup>渦巻き文の飾りが付いています。こうした文様は、約5,000年前の縄文時代中期に八ヶ岳山麓を中心に関東へと広がった<sup>そりしきどき</sup>「曾利式土器」の初期のものに見られます。

石器は長さ12~14cmの<sup>だせいせきふ</sup>打製石斧 (5~7) や、ものをたたき<sup>たたきいし</sup>石 (8)、ものをすりつぶす<sup>すりいし</sup>磨石 (9) などが出土しています。



『田名塩田遺跡群 I』 1999.3 田名塩田遺跡群発掘調査団他を加工

※ 1の深鉢形土器は旧石器ハテナ館にて展示しています。

※ 5、6、7、9は正面と側面、8は正面と底面から見た図です。



屋根に  
のびては  
いけません！

火気厳禁

入口部分を見る





内部の状況



さて、これは後期旧石器時代の住居状遺構(復元)/南側から見たところ



東側から見たところ



南側から見たところ



じゅうきょじょういこう ふくげん  
**住居状遺構 (復元)**

Dwelling-like Feature (Reconstruction)

へいぜい 平成9年3月に発見された約20,000年前の<sup>こうききゅうせききじだい</sup>後期旧石器時代の<sup>あと</sup>住居跡と考えられる<sup>こんせき</sup>遺構(痕跡)を復元したものです。

れきくん こいし しゅうちゅう 礫群(小石が集中している場所)や<sup>せつかく</sup>石核(石器の<sup>そざい</sup>素材をはがし取った石)などによって<sup>ちよっぺい</sup>直径約10メートルの外周をめぐらした<sup>がいしゅう</sup>範囲から、<sup>ほんい</sup>2ヶ所の<sup>ろ</sup>炉(火をたいた場所)や12本の<sup>はしらあな</sup>柱穴の跡が確認されました。

加えて約3,000点もの石器類が発見されたことから、<sup>ていじゅう</sup>人類定住の可能性を示す遺構として注目され、平成11年1月28日に国の<sup>しせき</sup>史跡として指定されました。

This is a reconstruction of remains thought to be the traces of a 20,000-year-old Late Palaeolithic dwelling, discovered in March 1997. Pebble clusters, cores(for making stone tools), and other artifacts enclosed a circular area about 10 meters across, with two hearths (places where fires were burnt) and 12 postholes. About 3,000 stone tools were found. These remains suggested the possibility the people were settled rather than mobile, a significant find, so the area was designated an historical site on January 28,1999.



はっくつ  
発掘された住居状遺構

The dwelling-like feature being excavated



しゅうつど  
出土した石器 (槍先形尖頭器)

Stone tools found in the feature (spear points)

\* 周辺の後期旧石器時代の遺跡

\* 何メートル下に保存されている？ クイズ3

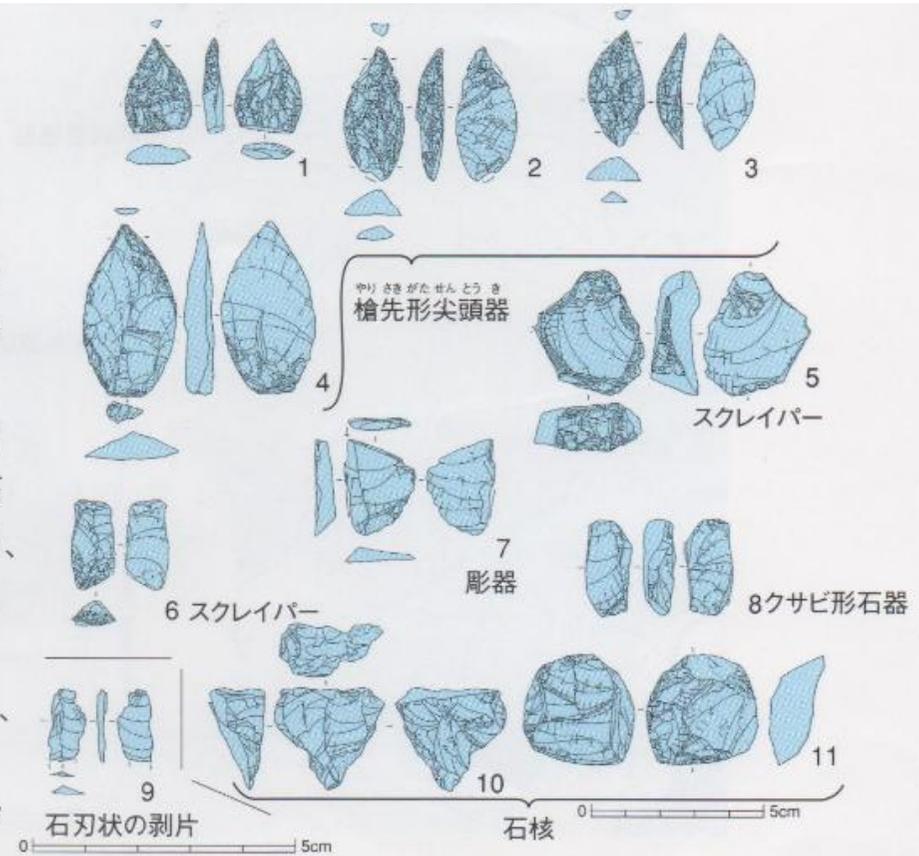
## 出土した石器

後期旧石器時代の住居状遺構から出土した石器類を器種別に分けると、狩猟具の槍先に使用した図1～4のような形をした**尖頭器**が最も多く193点（4の長さ5cm）、**ナイフ形石器**は21点でした。

加工道具と考えられる5、6のような**スクレイパー**は54点、8のような**クサビ形石器**は9点、7のような**彫器**は3点、**敲石**は2点でした。石器を作る材料を剥がし取った後に残される10、11のような**石核**は27点あり、9のような細い**石刃状の剥片**は5点でした。他に加工された剥片は66点、使用した痕のある剥片は82点、その他の剥片類は2,516点でした。

これらの石器を石材別に分けると、**黒曜石**が2,357点と圧倒的に多く、他に**凝灰岩**、**頁岩**、**安山岩**などがみられます。

黒曜石の産地推定で、最も多く検出されたのは長野県の**蓼科**エリアのもので、次いで静岡県天城、神奈川県箱根、長野県和田、栃木県高  
原山エリアと続きます。



「田名向原遺跡の石器群の評価について」白石浩之  
「田名向原遺跡Ⅱ」2004.3 相模原市教育委員会を加工  
※石器の実物は旧石器ハテナ館にて展示しています。

## 最古の住居跡か？

環状にめぐる丸い礫270点が分布する範囲は、遺構の平面形が、直径10mほどの円形であることを示しています。

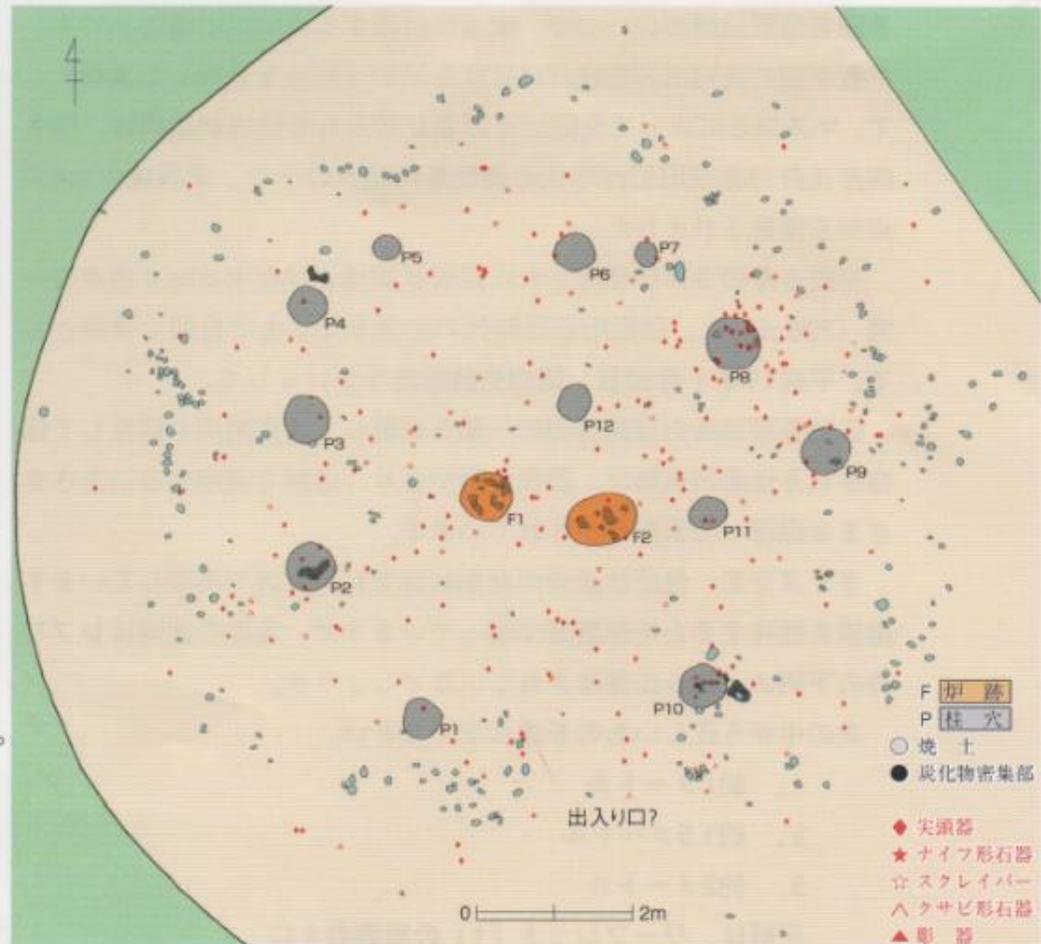
南側に1.5mほど礫のまとまりが途切れた部分が見られることから、住居跡とすればこの部分が入り口と推定されます。西端には、緑色の凝灰岩から剥片を剥がし取った作業跡ものこされています。

約3,000点もの石器類とともに確認された多量の炭化物片は、環状の礫を境に、外側からは認められませんでした。

炉跡は、中央から2ヶ所、焼土とともに確認されました。東の炉は、断面の観察から8cmほどの深さの皿状と確認されました。

柱の穴跡は、青黒く変色する12ヶ所が確認されました。10ヶ所が環礫に沿ってめぐり、2ヶ所は炉の北東で確認されました。掘りこみの様子は、2ヶ所で確認されました。

我が国では後期旧石器時代の住居跡は、発見されていませんが、住居跡と考えられる遺構（痕跡）であることから、住居状遺構と呼ばれます。



『田名向原遺跡 I』 2003.3 相模原市教育委員会を加工

そこから南方向を見たところ/前方は相模川



さて、これは遺跡の地層と黒曜石の産地推定の表示



# 遺跡の地層と黒曜石の産地推定

住居状遺構から出土した石器の石材、黒曜石を蛍光X線分析により産地推定をした結果、神津島エリアを除く中部・関東地方すべての産地エリアの黒曜石が確認されました。

最も多く検出されたのは長野県の蓼科エリアのもので、次いで天城、箱根、和田、諏訪、高原山エリアのものが続きます。



参考ホームページ

[http://www.gregorius.jp/photogallery/page\\_b54.html](http://www.gregorius.jp/photogallery/page_b54.html)

